

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】令和 1 年 8 月 8 日 (2019.8.8)

【公開番号】特開 2018-160329 (P2018-160329A)

【公開日】平成 30 年 10 月 11 日 (2018.10.11)

【年通号数】公開・登録公報 2018-039

【出願番号】特願 2017-55718 (P2017-55718)

【国際特許分類】

H 0 5 B 33/26 (2006.01)

H 0 1 L 51/50 (2006.01)

H 0 5 B 33/02 (2006.01)

H 0 5 B 33/04 (2006.01)

H 0 5 B 33/10 (2006.01)

【 F I 】

H 0 5 B 33/26 Z

H 0 5 B 33/14 A

H 0 5 B 33/02

H 0 5 B 33/04

H 0 5 B 33/10

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 6 月 20 日 (2019.6.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

可撓性を有する基板であって、互いに対向する第 1 平坦部及び第 2 平坦部と、前記第 1 平坦部の端部と前記第 2 平坦部の端部とを接続する湾曲形状の接続部と、を有し、前記第 1 平坦部、前記第 2 平坦部及び前記接続部が一体に形成された該基板と、

前記第 1 平坦部の前記第 2 平坦部に対向する一方の面に配置され、当該一方の面側から第 1 電極層、第 1 有機機能層及び第 2 電極層が少なくとも配置されてなる第 1 有機 E L 部と、

前記第 2 平坦部の前記第 1 平坦部に対向する一方の面に配置され、当該一方の面側から第 3 電極層、第 2 有機機能層及び第 4 電極層が少なくとも配置されてなる第 2 有機 E L 部と、を備え、

前記第 1 電極層及び前記第 3 電極層は、前記接続部に配置されておらず、

前記第 2 電極層及び前記第 4 電極層は、一体に形成されており、前記第 1 平坦部、前記第 2 平坦部及び前記接続部にわたって配置されている、有機 E L 素子。

【請求項 2】

前記第 1 有機機能層及び前記第 2 有機機能層は、一体に形成されており、前記第 1 平坦部、前記第 2 平坦部及び前記接続部にわたって配置されている、請求項 1 に記載の有機 E L 素子。

【請求項 3】

前記第 1 有機機能層と前記第 2 有機機能層とは、発光色が異なる、請求項 1 又は 2 に記載の有機 E L 素子。

【請求項 4】

前記第 1 有機 E L 部と前記第 2 有機 E L 部との間に封止部を備える、請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載の有機 E L 素子。

【請求項 5】

可撓性を有する基板の一方の主面上に、第 1 電極層、第 1 有機機能層及び第 2 電極層が少なくとも配置されてなる第 1 有機 E L 部と、第 3 電極層、第 2 有機機能層及び第 4 電極層が少なくとも配置されてなる第 2 有機 E L 部と、を所定の間隔をあけて形成する形成工程と、

前記第 1 有機 E L 部と前記第 2 有機 E L 部とが互いに対向するように、前記第 1 有機 E L 部と前記第 2 有機 E L 部との間の領域を折り曲げ部分として前記基板を折り曲げる工程と、を含み、

前記形成工程において、前記基板の前記一方の主面上に、前記第 1 電極層及び前記第 1 有機機能層と、前記第 3 電極層及び前記第 2 有機機能層とを形成した後に、前記第 1 有機機能層上、前記第 2 有機機能層上及び前記第 1 電極層と前記第 3 電極層との間の前記一方の主面上にわたって前記第 2 電極層及び前記第 4 電極層を一体に形成する、有機 E L 素子の製造方法。